



全員協議会報告(10/19)

今月の全協は盛りだくさんで、皆さんに我がこととして考えてほしいものばかりでした。公共の役割とは、誰のためどこを向いて市政を行なうのか問われています。

ならこの里 民間譲渡

黒字の「ならこの里」を民間に売る事に共産党は反対です。



「ならこの里」は、市民の福利厚生と中山間地の地域振興などを目的に国の財政融資を受けて建設し、地域第3セクターが運営してきました。本来なら国の財政融資の80%は交付金として充たされるはずでしたが、今回の譲渡で財政融資全額の8378万6千円を国に返還します。

第3セクターが持っている温泉施設を613万3千円で市は買収した上で、建物全体を8316万6千円で売ります。その上、譲渡先の東海ガスがこれから投資する7370万円の1/2にあたる3685万円を市が補助します。

いろいろ差し引くと4366万3千円を市が出して、民間会社に施設を譲渡し後はお任せします、ということになります。

アウトドア人気で企業にはうまみがありますが、山間部のならこは豪雨災害頻発地域であり、人口減少も進んでいる場所です。公の関与が減ったときのリスクも心配のひとつです。企業は採算が合わなければ撤退します。

環境資源ギヤラリー2025年度からごみ全量外部搬出の方針説明

ごみの処理は住民サービスの根幹で自治体の責務です。現在不燃物処理施設の火災後、不燃物は市外で処理してもらっています。昨年末には焼却施設が故障し、緊急に燃えるごみも市外に運び処理してもらいました。

とにかく運転が難しく、全国で不調が相次ぐキルン式といわれる現在の炉。新しい炉は選定委員会でストーカ炉の方向が出されていますが、完成まで修理をして使うとすると莫大なお金がかかるうえ、安定運転も見通せないとの説明でした。

燃えるごみの処理まで安易に外部搬出でいいのか。環境資源ギヤラリーの議会でも現在の炉の部分改修といった方法の検討や、計画前倒しでの外部搬出期間短縮等の提案が議員から出ました。

市の財政負担を減らすことも大事ですし、ごみ排出量の少ないまちとして責任あるごみ処理を堅持することも大事だと考えています。このピンチを逆にごみ減量化を進め、カーボンニュートラルに向けたごみ政策の転換への契機に！と思います。11/14にある環境資源ギヤラリー臨時全員協議会の話し合いが重要だと思います。

松ヶ岡の今後の整備運営について

旧山崎邸の松ヶ岡は私が議員になる前に市が買い取り、松ヶ岡プロジェクト(修復事業)を開始。現在寄付以外は国交省の「社会資本整備総合交付金」とふるさと納税の中の市長裁量分で費用を賄いながら来年度までかけ、母屋・長谷門・米蔵の修復が行なわれています。

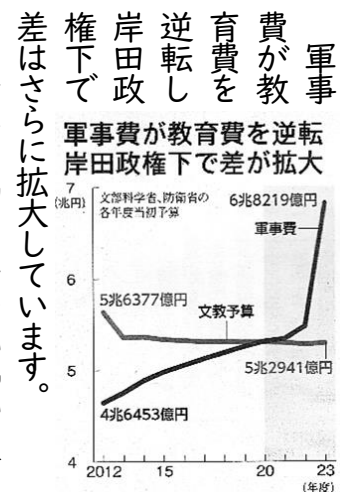
国の重要文化財指定を目指していますが、中途半端では指定されないからと、2025年度以降再度5年、毎年3千万円程のふるさと納税を交付金とともに使い修復を継続し、残る広い庭や蔵などはそのまた後5年で修復を続け計画です。

長期的予算化をする前に、市民全体の声を聞く必要を感じます。

※続きの項目は次号で

岸田自民党政権NOの声を!

もうこんな政治はこりこり



ジュズサンゴ

市民アンケートにご協力を

共産党議員団は2023市民アンケートを行なって市民の皆さんの声を集めています。是非ご協力下さい。全戸配布の紙での回答の他、こちらのQRコードからも回答できます。

